

事業名：文化的景観「秋吉台ドリーネ畑」と 維新の道「赤間が関街道中道筋」 の整備・保全

(うち、赤間が関街道の活用)

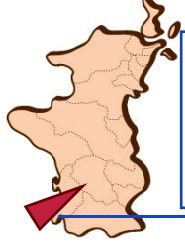
地域協議会名：赤郷地区振興会

活動期間(予定)：平成25年度～平成27年度

発表者：山口大学／赤郷地域応援サポーター

地域の現状と課題

- 活動地域：美祢市赤郷地区
- 地域の概況
- 人口892人、367世帯
- 65歳以上人口割合43.7%
- 地域の課題およびニーズ
- 赤間が関街道中道筋の整備
- 赤間が関街道WALKの実施



活動地域の位置

取組の概要

到達目標

街道整備とWALKイベントの開催

地域協議会の活動内容(予定)

平成二五年度

1. 街道筋の草刈り、雑木の伐採、案内板の設置
2. 赤間が関街道中道筋WALKの開催

大学等の支援内容(予定)

街道整備、WALKイベントの開催
両方に参加

平成二六年度

1. 街道筋の草刈り、雑木の伐採、案内板の設置
2. 赤間が関街道中道筋WALKの開催

WALKイベントの開催

平成二七年度

1. 街道筋の草刈り、雑木の伐採、案内板の設置
2. 赤間が関街道中道筋WALKの開催

街道整備、WALKイベントの開催

活動状況①



街道WALKの会場に到着

活動状況②



ごぼう茶を作っています

活動状況③



開会式のあいさつ

取組の成果等

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
- 赤間が関街道WALKの開催にて、会場の設営やごぼう茶の準備、参加者の随行など、人手のかかるイベントでの補助作業は十分な成果があった。
- 残された課題や今後の取組
- 平成26年度は参加学生が少なかったもので、予定していた計画のうち、街道整備を手伝えなかった。平成27年度は25年度並みかそれ以上の参加を期待する。

活動参加者

地域での受入組織
赤郷地区振興会

- 会長 中屋弘幸

街道に関心のあ
る方であれば、ぜ
ひ一緒に活動して
ください。



支援大学等

山口大学

人数6名

- 理学部3年 山本凌平
- 人文学部3年 岳田亜実
- 人文学部3年 伊藤惟
- 経済学部2年 我有未蘭
- 経済学部2年 横山真子
- 教育学部1年 中野友理枝

朝早く集まりました

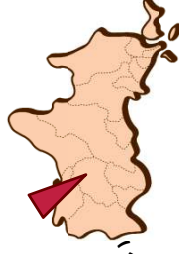


**事業名：文化的景観「秋吉台ドリーネ畑」と
維新の道「赤間が関街道中道筋」
の整備・保全
(うち、秋吉台ドリーネ畑の活用)
地域協議会名：赤郷地区振興会
活動期間(予定)：平成25年度～**

発表者：農業大学校社会活動グループ

地域の現状と課題

- **活動地域：美祢市赤郷地区**
- **地域の概況**
赤郷地区は、秋吉台の麓に位置し昔から秋吉台とは深い関わりがあり、「ドリーネ」を畑地とし、周辺の草を牛馬の飼料や農作物の敷き草や堆肥に利用してきた。しかし、近年秋吉台地の資源を利用する人々が激減し、秋吉台の荒廃が急速に進行している。
- **地域の課題およびニーズ**
ドリーネ畑を活用して、農作物の生産・収穫を行う。
畑づくり、種まき・収穫の作業支援
都市住民が参加するイベントへの協力
ドリーネ畑周辺の草刈り
秋吉台「山焼き」のための火道切り、火道づくり
秋吉台「山焼き」火入れ



取組の概要

到達目標

ドリーネ畑等再生

地域協議会の活動内容(予定)

- ドリーネ畑の活用
- ドリーネ畑の維持・管理(火道づくり)
- 放任果樹園の維持・管理
- 赤間関街道中道筋

平成25年度

ドリーネ畑の活用

- ドリーネ畑の維持・管理(火道づくり)
- 放任果樹園の維持・管理
- 赤間関街道中道筋

平成26年度

大学等の支援内容(予定)

- ドリーネ畑の維持・管理(火道づくり)
- 放任果樹園の維持・管理

ドリーネ畑の活用

- ドリーネ畑の維持・管理
- 放任果樹園の維持・管理
- 赤間関街道中道筋
- 秋吉台「山焼き」火道切り
- 秋吉台「山焼き」火入れ

活動状況①



ドリーネ畑の整備



ドリーネ畑周辺の草刈り

活動状況②



都市住民参加行事への協力支援

取組の成果等

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
 - －ドリーネ畑の整備
 - －ドリーネ畑周辺の整備
 - －秋吉台「山焼き」の火道切りや火入れ支援
 - －荒廃果樹園の整備(地区振興会の管理支援)
- 残された課題や今後の取組
 - －ドリーネ畑での作物栽培
 - －ドリーネ畑の継続的な維持管理
 - －学生の自主的な活動へのステップアップ方法
 - －地域と学生との取り組みの継続方法

活動状況③



秋吉台「山焼き」の火入れ

活動参加者

地域での受入組織

赤郷地区振興会

人数 5名

- 会長 中屋弘幸氏他

支援大学等

山口県立農業大学校

人数24名

磯崎 諒	2年
久保 伶名	2年
西田 賢二	2年
藤田 大輝	2年
宮田 世嗣	2年
渡邊 将晃	2年
糸藤 真由	2年
沖野 あす香	2年
佐古 真輝	2年
柴岡 真子	2年
藤崎 春樹	2年
山田 敬也	2年
好野 聖也	2年
井原 聖宏	2年
大西 佐知子	2年
田中 響	2年
本塚 秀作	2年
安光 洋和	2年
山本 凌太郎	2年
吉住 将	2年
吉本 晃人	2年
甲斐 直人	2年
松本 啓太郎	2年
齊藤 昌彦	2年
教官	教官

自然を壊さず、共生するような形で農業ができることにとっても驚いた。ごぼうの栽培では地域ぐるみでイベントなどを行っていたとても賑やかで楽しい所だった。若い人が入ってくれば、さらに発展していくのではと思った。

草刈りは大変でしたが、やりがいを感じた。相手方とたくさん交流できて嬉しかった。

火入れする場所に行った時、草がほとんどなくなきれい刈られており、細やかな管理をうかがえました。

今回は、あくまで講義の一環で行ったにすぎなかったが、参加して、ドリーネ畑が減少し、また、本場に若者がいないんだと話を聞いて、ほっとけないというか、必要とされているのではないかと考えた。参加できる時は、絶対に参加して、喜んでもらいたい。

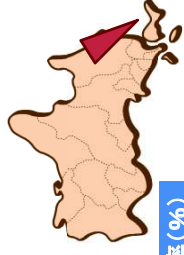
事業名：柱島群島地域活性化事業

地域協議会名：柱島群島盛り上げ隊
活動期間(予定)：平成26年度～平成28年度

発表者：法政大学現代福祉学部 関司ゼミナール

地域の現状と課題

- 活動地域：岩国市柱島群島地域
- 地域の概況(平成27年2月1日現在)
柱島、端島、黒島の3島で構成



島名	面積(km ²)	人口(人)	高齢化率(%)
柱島	3.12	176	79.7
端島	0.67	30	83.3
黒島	0.54	25	92.0
計	4.33	231	81.5

離島航路(1日3～4往復)で約60分
(※岩国港から各島まで約22～26km)

- 地域の課題およびニーズ
高齢化等による地域づくりの担い手不足→人材確保
交流・定住促進を図るためのアイデア創出

取組の概要

到達目標

- 交流人口の増大(H25:5,600人 → H28:6,000人)
- 地域おこし協力隊員の定住・定着(1名)
- IJU(移住)応援団登録者の増加(H25:3人 → H28:5人)

地域協議会の活動内容(予定)

- 島民と学生との意見交換会
- 3島での現地フィールドワーク
- 水産業(主要産業)、周辺物販施設・海運会社(モノ・ヒトの動き)の現状把握
- 農業祭への出店

大学等の支援内容(予定)

- 3島の住民・出身者への聞き取り調査
- 島あるき・地域資源探し
- 漁師さんとの水産業ヒアリング・作業体験
- 島の農作物の販路調査

- 活動に向けた島民の機運醸成、世帯・ヒトの状況把握
- 島外との交流を促進する手段の検討
- 島の産品を活用できる手段の検討

- 勉強会、集落点検活動の実施
- 島外につながる主体(出身者・産品購入者など)へのヒアリング
- 産品活用の事例調査・情報提供

- 島外との新たな交流促進手段の実現
- 島の産品活用の試行
- 地域の将来計画(夢プラン)づくり

- 新たな交流手段・産品活用のトライアル・モニター調査
- 夢プラン作成支援(WS開催)

活動状況①

【第1回訪問】9月1日～5日

<テーマ：市内めぐり・柱島群島初訪問・島民の方々への聞き取り>

- 1日目：本土市内の資源確認(錦帯橋・岩国城・五竜の滝他)、市長(法政先輩)表敬訪問
- 2日目：黒島・端島・柱島での島民交流会(島の歴史・島民の暮らしづくり)
- 3日目：柱島フィールドワーク(島内散策、地元住民との意見交換会)
- 4日目：3島でお宅訪問、フィールドワークのまとめ
- 5日目：成果報告会の開催(自然・環境・観光をテーマに意見交換)

→成果：〇空き家の増加や農業・漁業の後継者不足といった島の課題を把握できた。一方で、自然の豊かさや高齢でも元氣な島の皆さんとふれあい、島の魅力をたくさん感じることもできた。〇これから島をアピールしていくポイントを見つけることができ、島民の方々と一緒に新しい取組ができそうな可能性を感じた。



活動状況②

【第2回訪問】11月1日～2日

＜テーマ：柱島群島に関わる「モノ」と「人」の動きの基本を調査＞

- 1日目：JA岩国市農業祭に出品する野菜(サツマイモ・里芋)の収穫・出荷準備、漁師さんと海に出て、海産物(ひじき、わかめなど)の漁場を見学
- 2日目：農業祭での販売手伝い(主な商品：サザエ・海藻類・島の野菜など)島の対岸にある商業施設・定期船の運行会社でのヒアリング

→成果：○海産物や野菜は人気があり、リピーターも多クブランド化できる可能性が高そう。○現在は島とつながりが無い対岸にある商業施設も、今後、島の特産物売り出す場所として活用できる可能性を感じた。○定期船の利用客数、運行本数の減少が島民の生活に与える影響の大きさも確認できた。



活動状況③

【第3回訪問】3月1日～5日

＜テーマ：島生業・暮らしに寄り添う／島外とのつながりを探る＞

- 1日目：本土に住む柱島群島出身者との意見交換会
- 2日目：わかめの収穫・加工体験、柱島各名所めぐり(金蔵山登山、島尻海岸)
- 3日目：わかめの加工体験、島民の皆さんと1年間の振り返り、3島に分かれて民泊
- 4日目：わかめの袋詰め作業、金蔵山登山
- 5日目：潮風公園みなとオアシスゆう見学、市場・岩国商工会議所・市役所各課ヒアリング

→成果：○島出身者からの「移住者を増やす事も重要だが、まず観光客を呼び込みながら島の存続を考えていくことが大切」という話を受け、一人でも多く島の魅力を知ってもらうことが重要だと感じた。○わかめの作業を体験し、手の込んだ地物の美味しさを堪能する一方、人材不足も感じた。○3島の民泊から、島の皆さんの普段の暮らしは、質素でもほぼ自給自足で、都会では感じられないような充実した生活を送っていることがわかった。



取組の成果等

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
 - ▼人口減少、高齢化による島のさまざまな課題が浮き彫りになる一方で、島民、学生相互の交流を重ねることで、島民の元気さ、前向きな姿勢を確認できた。
 - ▼柱島群島(ウミ)を岩国市の本土(ヤマ・マチ)とのつながりから捉え直すことができ、島内の限られた資源や人材を、島外との「ヒト」の交流や「モノ」の流通に改めて結び付け直す可能性を見出すことができた。
- 残された課題や今後の取組
 - ▼活性化に向けた活動のさらなる下地づくりを行うため、学びの機会(勉強会の開催)や他出者の動向を確認する集落点検活動を通じて、人手不足の中での地域づくりに向けた可能性を高め、機運を高めていく。
 - ▼1年目の取組を通じて得られた数多くの基礎情報を活用して、交流の促進や産品活用に繋がるアイデアを、島民、島外関係者、学生の間で出し合い、具体的な手段の検討につなげていく。

活動参加者

地域での受入組織

島づくり推進協議会など 人数40名

- 島づくり推進協議会(木田昭一さん他)
- 柱島地区自治会連合会(笹川清さん他)
- 柱島漁業協同組合(嶋岡文心さん他)
- 柱島漁業集落(堀岡孝二さん他)
- 婦人会 ○柱島青壮年4Hクラブの皆さん

希望を持って動かしがたい。

若者に力もらっていただきます！

口コミで島をPRしてほしい！

島の将来を一緒に考えてくれてうれしい！

支援大学等

法政大学(図工ゼミナール) 人数11名

- ＜准教授＞ 図工直也
- ＜2年生＞ 徳永将輝/伊藤直人/近藤勲太/柏佳子/岩崎大輝/須川雅也/山口雄介/永松由衣/大浪千穂/山田康雅

課題は多いが、解ける可能性がある！

島のおじいちゃん、おばあちゃんが元気でかわいい！

島民みんな仲良しで毎日が楽しい！

島にくるたびに新しい発見がある！

都会にはない自然を堪能できる！

海がきれいで、魚がおいしい。

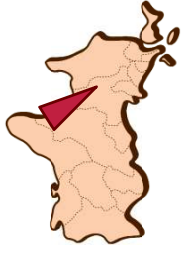
事業名：須金リノベーションプロジェクト

地域協議会名：須金リノベーションプロジェクト協議会
活動期間(予定)：平成26年度～平成28年度

発表者：明治大学農学部地域環境計画研究室

地域の現状と課題

- 活動地域：周南市須金地区
- 地域の概況
 - ✓市北部で最も高齢化・人口減少が進展
- 地域の課題およびニーズ
 - ✓地域の担い手確保
 - ✓商業機能の縮小，公共交通の利便性確保
 - ✓高齢者が安心な暮らしの確保
 - ✓新規就農，Iターン促進のための定住条件づくり



取組の概要

到達目標

地域の担い手確保⇒新規移住世帯を平成28年までに5戸

地域協議会の活動内容(予定)

- 平成26年度
- ・通学交通の確保
 - ・鳥獣害(サル)対策

- 平成27年度
- ・通学交通の確保
 - ・鳥獣害(サル)対策
 - ・移住者に向けた地域情報の発信
 - ・定住基盤の確保

- 平成28年度
- ・通学交通の確保
 - ・鳥獣害(サル)対策
 - ・移住者に向けた地域情報の発信
 - ・定住基盤の確保

大学等の支援内容(予定)

- ・通学交通の実態把握と改善案検討
- ・鳥獣害の実態把握と対策検討

- ・バス交通再編案の作成と試行
- ・対策検討と実践、評価
- ・情報ニーズの把握と発信方法検討
- ・空き家調査。人材ニーズの把握。

- ・バス交通再編案の試行と評価
- ・対策検討と実践、評価
- ・情報発信の実践と評価
- ・定住希望者のお試し生活支援

活動状況① 課題探索

集落点検(お宝探し)



活動状況② 通学交通確保

◎児童・生徒の保護者へ聞き取り調査(全7戸)

- ✓ 定住者の確保⇒受入環境の整備
子どもの教育(通学)環境
- ✓ 通学交通の現状
路線バス+親の送迎⇒経済的・時間的な負担
- ✓ 高校入学が転機に⇒流出の可能性
- ✓ 再編の方向性
デマンド交通, 幹線+ライダー

取組の成果等

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
- ✓ 地域課題の見える化を推進できた。
- ✓ 実践テーマを抽出できた。
- ✓ 地域の中に大学生がいる日常が生まれた。
- 残された課題や今後の取組
- ✓ 抽出した実践テーマの実行。

活動状況③ 鳥獣害(サル)対策

◎地区住民への聞き取り調査(計29名)

- ✓ 対策はしているが,被害がなくなかない
- ✓ 集落ぐるみの対策への参加⇒70歳代が上限?
- ✓ 集落ぐるみの対策の範囲は自分の部落
- ✓ 農園地区と集落は別の対策単位



住民同士の情報交換, 集落を餌場と認識させない



サルを須金に近づけない

活動参加者

地域での受入組織

- | 生きがいのある須金をつくる会 | 人数 | 28名 |
|--|----|-----|
| <ul style="list-style-type: none"> • 内山浩昭(生きがいのある須金をつくる会会長) • 福田護(須金地区自治会連合会長) • 古田よし子(須金の里ひまわり会会長) • 高橋勝巳(地域の若手) • 須田浩史(地域の若手・移住者) 他 | | |

取組みの初年度として、まずは、若者が須金で生活していく上で、必要な条件整備を調査していただきました。テーマは、子供の学校への送迎を中心とした新たな生活交通の導入と農作物を荒らすサルの被害です。両テーマとも、住民への聞き取り調査を主体としており、広く住民ニーズを掴むことができ、来年度以降行っていく、具体的な実践活動が期待されます。

また、次年度は、若者を須金に呼び込むための方策を練ることとしており、事業が本格化していきます。
地域も学生と共に、楽しみながら、活動が出来る行ければと考えています。

支援大学等

- | 明治大学 | 人数 | 20名 |
|--|----|-----|
| <ul style="list-style-type: none"> • 3年: 松本拓也, 中村美沙樹, 新井さつき, 櫻井奈葉, 佐藤康平, 白木絵理, 中村憲晃 • 4年: 内山薫穂, 古口梨旺, 水口佳祐, 島中十和子, 渡辺千佳, 古田恒平, 八敷友里 • 大学院: 藤田紀之, 平戸裕馬, 原渉 • PD研究員: 齋藤未来 教員: 服部俊宏 | | |

夏の合宿から、須金の魅力・問題点を知ることが出来ました。また、そこからヒントを得て、須金における効果的なサル対策を考察したいと思い、2月には18日間の意識調査を行わせていただきました。どちらの時も温かく迎えて下さった須金の皆様のために、成果を出せるように努力致します。

須金地区を訪れて地元の方とお話しをすると、そこには暖かさがありました。そしてなにより、地域を活性化させようという活気に満ちあふれていました。

若い自分たちも負けないように頑張らなければならぬと痛感させられました。